

自由記入欄 (ご自由にお使いください)

作品自体は明らかに「動画」なのですが、動画部門のフォーマットになぜかswfがなかったので、「その他表現部門」を選択しています。

フキダシは、インタフェース要素として、非常に高いポテンシャルを持っているのは漫画を読めば歴然としているのですが、コンピュータの世界ではもうひとつその実力を発揮しきれていないように思えます。

例えば、Wordのフキダシオブジェクトは、シッポ(フキダシから飛び出して人物を指す三角)の形が、フキダシのサイズを変更することで間延びしてしまい、非常に見づらい形になっています。

このフキダシの下に出ている三角は、もはやフキダシのシッポに見えませんが、この仕様で良しとした感覚に唖然とします

本作品は、フキダシの持つポテンシャルを引き出すことをめざして、左右にキャラクタを表示した漫才形式を取っています。

フキダシのスクロールアニメーションによって、強制的に文字を読ませることにより、音声がないにも関わらず、タイミングによる「間」を表現することに成功しています。

本作品は、あたかも声を聞いているかのようなタイミングでフキダシを表示し、音を出さないことで難聴者の方でも楽しめる、ユニバーサルな表現として成立しています。

もちろん、音声出力のないデバイスや、音声を出力するのがはばかれるシチュエーションなどでも、音声がないことにより気軽に再生できます。

動画は、画像を保持するswfとシナリオ(台詞)を保持するxmlに分かれており、xmlの書き換えを行うことで、容易にコンテンツを修正したり、新しいシナリオを追加することができるようになっています。

登場するキャラクタは、「まほろちゃん(<https://twitter.com/#1/mahorochan>)」と同様の、いわゆる「萌え」的な方向性のデザインで、「鍋島化け猫騒動」で全国的に有名な猫又のお豊の方(<http://www.town.shiroishi.lg.jp/view.php?pageId=2450>)をモチーフとしています。

オレンジの髪と緑の服で、佐賀の名産品であるみかんを彷彿とさせます。また衣装デザインは、「鍋島化け猫騒動」は「白石化け猫騒動」とも呼ばれることにちなんで、白石高校の制服のアレンジでデザインされています。

本作は、菊地秀之作「エイリアン怪猫伝」を越えるインパクトを佐賀に与えてくれるものと自負しております。